

(2) 正しい職業観と明確な進路意識の育成

| | | |
|----------|---|---|
| 具体的目標 | <p>①保護者・卒業生や上級学校から講師を招き、進路意識を育む。</p> <p>②様々な分野から講師をまねき「国際理解講座」を開催し、豊かな世界観・社会観を育成する。</p> <p>③自らの進路を主体的に切り開く能力を涵養できるよう、新たなプログラムを研究開発する。</p> <p>④3年間を通じた探究活動を充実させる。</p> | |
| 本年度の取り組み | <p>①キャリア教育の一環として「進路探究の日」・「小論文プログラム」・「読書活動」・「学校説明会」・「上級学校見学会」・「体験入学」・「職場見学会」・「高大連携授業」などを実施。</p> <p>②各界から講師を招き、年5回程度の国際理解講座を実施。</p> <p>③学校行事と学習活動を結び付ける新たなプログラムを研究。</p> <p>④探究活動と入試結果を結びつける体制の研究。</p> | |
| 成果 | <p>・「21世紀型学力」を伸ばす様々な教育機会を提供した。</p> <p>・学校全体で進路指導にあたり、成果を出すことができた。</p> <p>・探究活動と入試結果を結びつけることができた。</p> | |
| 反省と課題 | <p>・総合型選抜や学校推薦型選抜入試を受験する生徒の割合が高いため、その指導に対応できるような指導力の向上が必須である。</p> <p>・充実した内容の「国際理解講座」が展開されている。</p> <p>・「21世紀型学力」を養うための3年間を見据えた早期の進路指導の計画・立案が不十分であった。</p> | |
| 評価の観点 | <p>①進路関係行事の内容</p> <p>②国際理解講座の内容</p> <p>③行事とカリキュラムの連携の進捗度</p> <p>④進学実績</p> | |
| 観点別自己評価 | <p>総合評価 3.5 (大変良い=4、良い=3、悪い=2、大変悪い=1として算出)</p> <p>①キャリア教育の内容は充実している。 4</p> <p>②国際理解講座は、回数は減ったものの内容は充実している。 3</p> <p>③行事と学習活動の連携という考え方が教員間に浸透してきた。 3</p> <p>④探究活動を推進し、総合型選抜や学校推薦型選抜入試で成果を上げた。 4</p> | |
| 評価委員会評価 | 以下の観点で4段階評価をお願いいたします。 | 個別評価 |
| | <p>①進路関係行事の内容</p> <p>②国際理解講座の内容</p> <p>③行事とカリキュラムの連携の進捗度</p> <p>④進学実績</p> | <p>① 3.3</p> <p>② 3.3</p> <p>③ 3.1</p> <p>④ 3.3</p> |
| コメント | | |

(3) 心豊かな人間性の育成

| | | |
|-------------|--|----------------------------------|
| 具体的目標 | ①地球市民として円滑な人間関係を築き、生きる力を涵養する。 ②社会の一員としての規範意識の向上を図る。 ③学習活動、学校行事、部活動に主体的に取り組める生徒を育てる。 ④国際性を重視した教育を行う。 | |
| 本年度の取組内容 | ①SDGsの理念を理解できるように文化活動発表会のテーマの柱とした。 ②ユネスコ委員会の活動によって、SDGsマインドを全校に広める工夫をした。 ③生徒と学級委員が主体的に学校行事に取り組む工夫をしている。さらに、取り組んだ内容を全校生徒に発信し、「見える化」している。 ④国際交流では、コロナ禍の中、アメリカのチェスタートン高校訪問を実現させた。アメリカ語学研修・韓国語学研修も再開する。(3月中旬) | |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの理念についての理解が進んでいる。 ・社会の一員としての生徒の規範意識が高まりつつある。 ・自ら設定した研究テーマに対して、主体的に取り組む姿勢が養われている。 ・違いをそのまま受け入れるという素晴らしい能力が育ちつつある。 | |
| 反省と課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・各種行事・活動を生徒主導で取り組めるまでには至っていない。 ・規範意識を高めることに主体をおいた指導を進めていく必要がある。 ・国際化・多様化の中で、教員の意識が追いつかない事例がある。 | |
| 評価の観点 | ①他を受けいれようとする寛容性の涵養 ②社会の一員としての規範意識の醸成 ③生徒の自主性と行事の運営度 ④国際交流の内容 | |
| 観点別自己評価 | 総合評価 3.5 (大変良い=4、良い=3、悪い=2、大変悪い=1として算出) ①多様な生徒が学ぶ環境で、生徒たちの寛容性が養われている。 4 ②生徒たちに社会の一員としての規範意識が身についている。 3 ③学校行事に生徒が主体的に取り組むようになっている。 3 ④国際交流の内容は充実している。 4 | |
| 評価委員会 評価 | 以下の観点で4段階評価をお願いいたします。 | 個別評価 |
| | ①他を受け入れようとする寛容性の涵養 ②生徒の規範意識の定着 ③生徒の自主性と行事の運営度 ④国際交流の内容 | ① 3.6 ② 3.2 ③ 3.3 ④ 3.6 |
| コメント | | |

(4) 教育環境の充実

| | | |
|----------|---|----------------------------------|
| 具体的目標 | ①体育施設のさらなる充実を図る。 ②ICT教育推進のための情報環境の増強を図る。 ③自学自習用の教室を整備し、面接用の個室を増やす。 ④文化芸術を通して、豊かな感性や想像力を養う。 | |
| 本年度の取組内容 | ①体育館の換気扇・自動手洗い場の整備・維持。 ②ピロティの人工芝、およびLED照明の整備・維持。 ③各教室のプロジェクターの交換・改修。 ④絵画など芸術作品の追加と、やすらぎスペースの整備。 | |
| 成果 | ①体育館の換気扇・自動手洗い場により、熱中症およびコロナへの対策ができた。 ②ピロティの新しい人工芝、LED照明により運動面での安全が確保できた。 ③プロジェクターとホワイトボードを有効活用することで授業が効率化できた。 ④校内展示の芸術作品を増やすことで、文化を楽しむ感性が養われた。 | |
| 反省と課題 | ・部活動の利用状況に比して活動場所の確保が十分とはいえない。 ・最先端のICT環境構築のため、常に設備を更新し続けていく必要がある。 ・面談室の数が限られている中、より効果的な指導を心がける必要がある。 | |
| 評価の観点 | ①生徒数に対応した体育施設の整備 ②ICT環境の整備 ③学習室・面談室の有効利用・整備 ④芸術作品追加とやすらぎスペースの整備 | |
| 観点別自己評価 | 総合評定 3.25 (大変良い=4、良い=3、悪い=2、大変悪い=1として算出) ①生徒数に対して体育施設の広さ・数が十分とはいえない。 2 ②ICT教育の推進のために県内最先端の環境が整っている。 4 ③学習室・面談室は整備されているが、相対的に多いとは言えない。 4 ④芸術作品が増え、休憩スペースがある程度整備された。 3 | |
| 評価委員会評価 | 以下の観点で4段階評価をお願いいたします。 | 個別評価 |
| | ①体育施設の整備状況 ②普通教室でのICT環境 ③学習室・面談室などの特別教室の整備状況 ④芸術作品追加とやすらぎスペースの整備状況 | ① 2.8 ② 3.8 ③ 3.6 ④ 3.4 |
| コメント | | |